

巻頭言

愛知医療学院短期大学
宮津 真寿美

お母ちゃんPT、頑張れ!!

理学療法白書によると、20代の理学療法士は、男性より女性の方が多い。手持ちの資料ではよくわからなかったが、子どもがいて働いている女性理学療法士も増えているのだろうか。

私事だが、早いもので、理学療法士暦はそろそろ20年になり、母親暦は今年10年になる。母親になったとたん、夜の仕事、会議、飲み会、日曜日や泊まりの学会に参加することは難しくなった。県士会の総会も欠席ばかりで理学療法士協会の動向などは、浦島太郎状態。先日も、有限責任中間法人の社員であるという通知がきて何のこっちゃと驚いた。

この10年、母親になってからも縁あって仕事を続けてきた。ただ、同僚には、迷惑のかけどおしであった。今でこそ、かなり減ったが、急な休み、早退、遅刻は、日常茶飯事。学生とのディスカッション中でも、保育園のお迎えの時間になったらさっさと帰った。同僚は、何も言わず、仕事のカバーも配慮もしてくれた。職場のありがたい理解があって、子育てと仕事が両立できたのである。

少子化の日本、その原因の一つは、働く女性が増えたからだそうだ。ところが、あまり知られていないが、統計学的には、働く女性が産む子どもの数と、働いていない女性が産む子どもの数はほぼ同じか、わずかに働く女性の方が多いらしい。私の周りの、母友達の中には、案外3人、4人の子の母がいる。子育てにお金がかかることは周知の事実なので、先行き不安な日本で、経済的には父も母も働いている方が、子どもを育てやすいのではないかと思う。理想の子どもの数に比べて実際の子どもの数は、1人少ないという調査があるので、女性は、もっと子どもを産みたいと思っているのである。あとは、職場の理解、子育てを手伝ってくれる人や安心できる保育施設の存在などの環境を整えば、理想の子どもの数に近づく。働く女性が増えると少子化が進むのではなく、働く女性の結婚や子育てを支援する環境を整えれば、少子化は減少するのではないかと、私は考えている。

女性の会員が多い理学療法士協会も、支援を考えてくれないか。まずは、学会には必ずキッズスペースがあって、子どもと一緒に学会に来てもいい環境にならないか。理学療法士は、人を対象としている以上、真摯に仕事に取り組んでいれば、常に新しい知識を取り入れたと思うはずである。新しい知識に触れる機会に飢えている、私みたいな浦島太郎状態のお母さん理学療法士がたくさんいると思うのだが、いかがなものだろうか。

この冬、息子がインフルエンザになり、ドキドキしながら仕事上の約束をキャンセルする旨の連絡をすると、メールで『お母ちゃん、頑張れ』だねと、快く了解してくれた方がいた。大変うれしかった。子育てしながらの仕事、大変なことが多いけど、うれしいこともたくさんある。お母さん理学療法士のみなさん、頑張ろう。